

ようご



QRコードを読み込むと岩手県学校保健会養護教諭部会HP (<http://www2.iwate-ed.jp/yougo/>)につながります。

発行 岩手県学校保健会
養護教諭部会
編集 広報部
平成30年9月30日
<http://www2.iwate-ed.jp/yougo/>



あいさつ

会長 菊地 玲子

会員の皆様におかれましては、日頃より当会の活動に対し、御理解と御支援、御協力をいただき誠にありがとうございます。

西日本豪雨災害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。この8月で、東日本大震災から7年6か月を迎えようとしています。本県の被災地では日常を取り戻しつつありますが、今もなお児童生徒に寄り添い健康教育活動をすすめておられる会員の方々に深く敬意を表しますとともに、これらの自然災害について、「決して忘れない」という思いを持ち続けながら、部会としてどのように取り組んでいくのか方向性を探っているところです。

さて、11月22日には、第42回岩手県養護教諭研究大会が盛岡市で開催されます。東北福祉大学教育学部上條晴夫教授をお招きし「養護教諭はもっと前に出て話そう—専門職としての話し方を振り返る—」と題した講演をいただくほか、シンポジウムを行います。社会環境や生活環境の急激な変化により、児童生徒の健康課題は多様化・深刻化し、これらの健康課題解決に向けて、養護教諭に求められる役割も多岐にわたっています。この研究大会が、どのキャリアステージにある養護教諭でも共に学び合い、互いに刺激し合いながら、更なる資質向上につながる一歩になればと考えておりますので、より多くの会員の皆様の参加をお願いいたします。

最後に、役員一同微力ではありますが、皆様方の職務の充実と発展のため、誠意をもって本会の円滑な運営に努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

《東日本大震災支援対策委員会より》

岩手県学校保健会養護教諭部会

東日本大震災支援対策委員長

石橋 寿子

会員の皆様には、運営に御協力いただき感謝申し上げます。

総会で協議していただいたとおり、東日本大震災支援対策委員会の活動は、今年度が最後となりました。2011年6月に設置され、保健室と養護教諭への支援の在り方を協議し確かつ迅速な支援活動を中長期的に継続することを目的として、活動してまいりました。この間、新たな自然災害や弾道ミサイル落下の心配、今年は災害レベルの暑さ等、まさに想定外の出来事が起き、保健室の取組の見直しがされてきました。

昨年度、『会員の声』や盛岡地区で実施した研修会では、「震災に限らず、親や友人を亡くした児童生徒に対してどのように支援していけば良いのか」「対応が難しく感じる事例がある」「地域や保護者の不安感が震災を経験していない子供にも影響していると感じる」「災害時の対応について不安があり、研修を受けたいと考えている」等の思いを寄せていただきました。

震災について、どのように伝え生かすのか、どのような支援が望ましいのかは、大きな課題だと感じています。

さて、今年度も『会員の声』を募る活動を行い、いただいた情報は事務局だより等でお伝えいたします。昨年度、困っている内容として多く挙げられたのは、「児童生徒の心身のケアの必要性を感じる」の項目で、4年連続で一番多く挙げられています。また、「PTSD様症状がみられる児童生徒がいる」「知識やスキルの不安がある」は、前年度と比べ多く挙げられた項目でした。目に見える復興が少しずつ進み、前を向き成長していく子供の姿がある一方、今やっと「辛い」と伝え始めた子供たちの姿がうかがえます。

震災は終わっていないと考えています。復興への道も続くでしょう。語り継ぐことを大切にして、活動していきたいと思っています。

定期代議員総会

5月28日(月)、いわて県民情報交流センターに於いて定期代議員総会が開催されました。来賓として、岩手県教育委員会事務局保健体育課総括課長 荒木田光孝様、同じく指導主事 平澤恒子様にご臨席を賜りました。

菊地玲子会長は、養護教諭の2年目研修、3年目研修が、今年度、県立学校から始まったことについて触れ、「本部会では、会員の皆様が自信を持って子供たちに向き合っていけるような実りある活動をしていきたい。」と挨拶しました。

保健体育課総括課長 荒木田光孝様からは、他県で起きた事件を受け、「学校と地域が一体となって子供たちの安全確保に努めていく必要性を改めて認識するとともに、万が一事件が発生した場合の危機管理体制、心のケアなど、養護教諭に求められる役割がますます重要となっている。」と述べられました。また、「養護教諭の資質向上及び学校保健の推進のために、養護教諭研修会、学校保健研修会、全国大会への派遣事業等

の機会を捉え、最新の情報を基に児童生徒の指導のみならず、校内体制の構築や教職員への情報提供など、学校保健の推進に役立てていただきたい。」とも述べられました。

議事は、議長の吉田ひろみ先生(花巻地区)と藤沢知子先生(和賀地区)により進められました。協議では、第11回実践研究に関する研修会について、昨年度実施されたアンケート結果を受けて、平日開催が提案され承認されました。その他、東日本大震災支援対策委員会の8年間の活動のまとめ方についても提案されました。活動のまとめは、部会誌「ようご岩手」に掲載する予定です。

その他、協議事項については、総会資料をご覧ください。(事務局員 上澤 裕子)

— 平成30年度事務局新役員 —



演題 「学校安全、危機管理における養護教諭の役割」

講師 岩手県教育委員会事務局保健体育課

指導主事 平澤恒子氏



1 学校の危機とは

いつ起こるかかわからない事件事故、災害に対して事前に対策を取る必要がある。学校では危機管理体制を作っているが、様々な事件や感染症のニュースを目にした時、自分の、または勤める学校の問題として捉えているか。他人事から自分事として意識転換し、学校安全・危機管理の知識を持つこと、組織化することが重要である。

2 学校安全の現状

学校の安全・安心を脅かす要因は、学校管理下における事故、交通事故、新たな感染症の流行、犯罪被害等多岐にわたり、不祥事や個人情報漏洩も要因になる。

3 危機管理の基本的な考え方

事前の危機管理がその後の対応の全てにつながる。いつ起こるかかわからない事故等にきちんと備えることが重要。

1) 危機管理の目的

- ・子供と教職員の命を守ること。
- ・子供と教職員の信頼関係を維持し、組織運営を行うこと。
- ・学校に対する保護者や地域社会から信用や信頼を守ること。

2) 三段階の危機管理～養護教諭の視点

【事前の危機管理:予防する】安全な環境を整備し、事件事故の発生を未然に防ぐ。例:感染症予防対策、保健教育(集団・個別)等。

【個別の危機管理:命を守る】事件事故の発生時に適切かつ迅速に対処し被害を最小限に抑える。例:救急処置、感染症対策、保健指導、健康相談等。
【事後の危機管理:復旧・復興する】危機が一旦収まった後のケア。通常の生活の再開。再発防止。例:健康観察、健康相談・保健室の環境や自分自身の対応の見直しと改善等。
(「学校の危機管理マニュアル作成の手引」文科省参考)

4 学校安全・危機管理における養護教諭の役割

日常の保健室情報を整理し、それらを教職員に情報提供し危機管理に生かすのは養護教諭の役割。事前に準備ができていてこそその危機対応。心のケアにおいては、養護教諭は学校と地域、関係機関等の調整役としての役割を求められており、学校保健と学校安全の核といえるのではない。

5 保健室の危機管理



事件事故・災害感染症等の危機管理を意識しながら、日常の保健室の対応を見直していく必要がある。事前の準備がなければ危機対応はできない。養護教諭から教職員へ組織として対応するように働きかけることが重要。教職員の理解の広がり、学校の安全・安心につながる。学校の危機管理に果たす養護教諭の役割は大きい。

「東日本大震災から7年！ 当時を振り返る」

～震災直後、支援のバトンタッチをされた事務局のお二人の先生より、当時を振り返っていただきました～

二戸市立浄法寺中学校 小山田ヨシ子

“未曾有”という言葉を連日耳にしながら諸々のトラブルに何とか耐えることができたのは、被災地の皆さんはもっともっと大変な思いで頑張っているのだから、このくらい我慢できなくてどうする！と逆に励ましをもらっていたのかもしれないと、今しみじみ思い起こしています。

3月25日当時の事務局が集まり、「仲間」のためにできること、しなければいけないことについて不安に押しつぶされそうになりながらも話し合いました。あの時、自分たちを支えてくれたのは、被災地の仲間や子供たちを思う気持ちは岩手県内の養護教諭全員が同じ思いだという確信でした。その思いを行動化できるよう川嶋会長のリーダーシップのもと一丸となり情報収集に努め、県教育委員会を訪問してのサポート依頼や実際に足を運んだ被災地訪問など、できることは躊躇せず実践につなげていきました。

また、被災地の先生方に直筆でお寄せいただいたメッセージは、想像以上の反応をいただくことができ、改めて絆の強さを感じることができました。

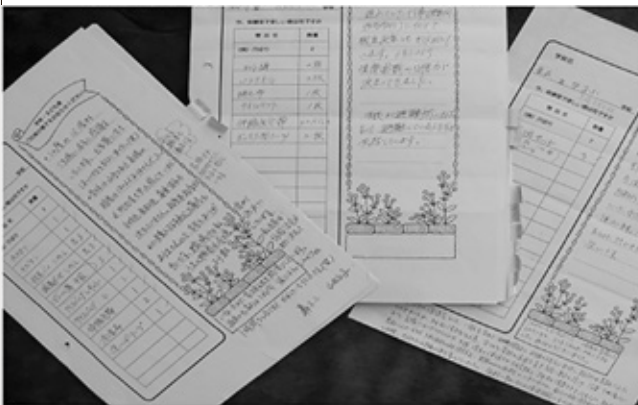
この仲間の思いと共に支援の継続を願い、バトンを引き継がせていただきました。

花巻市立花巻北中学校 福士 典子

前事務局は、発災から3か月足らずで震災支援対策委員会の設置という的確な支援活動の提案をしていただきました。それを受けて、私たち平成23年度の養護教諭部会事務局は震災支援活動をスタートすることができました。2011年7月に8名の支援対策委員と初顔合わせをした時には、委員の方々の支援への熱い思いを伺い、心強く感じたことが昨日のこのように思い出されます。当初の活動は、被災地区の会員や学校情報の整理から始まりました。委員は大変ご苦勞をされましたが、その情報を元に、関係機関と連携し、要望があった保健室物品の支援等を行い、平行して学校訪問もさせていただきました。被災地区の会員の声を直接聞き、支援活動に生かしたいと訪問させていただいたのですが、お会いできた会員の方々の「子供たちをしっかりと支えることが使命。」という力強いお話を聞かせていただいて、逆に私たちが元気づけられたことも思い出されます。この学校訪問が、2013年2月に発行した「東日本大震災にかかわる養護教諭の実践報告集」の編集のきっかけともなりました。また、支援対策委員が力を入れた活動の一つに心のサポート活動があります。岩手県立大学看護学部のご協力を得ながら園芸療法を学び、支援に役立てることができたことは、私たちの大きな成果となりました。広がる支援活動を会員と共有したいと考えホームページの開設を実現したのも支援対策委員の大きな功績です。これは、後に養護教諭部会のホームページに移行し、支援活動を通して会員相互の交流を深める重要なツールとなりました。委員会発足から7年が経過し、節目として支援対策委員会は閉じられますが、岩手の養護教諭が震災支援を通して学び合い、絆を深めたことは財産です。災害支援は、今後の課題でもあります。これからのこの財産を生かし、速やかで適切な災害支援について共に考え、深めていきたいと思いを新たにしております。



被災地の保健室で不足している物品 ～岩手県養護部会に寄せられた近況から～



全国養護教諭
連絡協議会

平成30年度 総会及び第20回学校保健連絡協議会

6月16日(土)、東京都ヒューリックホールに於いて、平成30年度全国養護教諭連絡協議会総会、並びに第20回学校保健連絡協議会が開催されました。

学校保健連絡協議会では、前半「養護教諭の資質向上を目指して～各研究会の実態～」と題し働き方改革・複数配置・現職研修について報告と意見交流が行われ、後半「養護教諭の資質向上（育成指標）について」と題し、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課松崎美枝安全教育調査官による講演がありました。講演の内容は、児童生徒の現代的健康課題と養護教諭の資

質向上について協議の内容も折込んだものでしたが、会員の皆様に岩手県の育成指標を参照のうえ、自分自身の育成指標を考えることをお勧めします。

総会では、働き方改革の取組と、ホームページの活用や会報等を通して各研究会と連携を密にしていきたいこと、2月22日に開催される第24回研究協議会の特別講演の講師が萩田和秀氏に決定したとの報告がありました。萩田氏は「コウノドリ」の主人公のモデルになった産婦人科医です。今年度の予定に入れてみてはいかがでしょうか。（会長 菊地 玲子）

第51回 東北学校保健大会に参加して

平成30年8月9日(木)・10日(金) 青森県三沢市

宮古市立重茂小学校

田中 泰代

【1】記念講演

◇「新しい姿勢教育」～子どもの能力を伸ばす姿勢体力の作り方～
早稲田大学保健体育科目 講師 碓田 琢磨
国民の10人に一人は腰痛や肩こりを持っていると言われていますが、体に負担のかかる姿勢（悪い姿勢）を長い間取り続けていることが原因と考えられています。新しい姿勢教育は、方法、目標、メリットを明確にすることで姿勢改善を成功に導くとしています。まずは座り方を見直し、猫背の姿勢からリセットすること、強制ではなく自発的にやりたくなるような声掛けが大切だとお話しされていました。自分の体を地球に対して垂直に保つ「筋力」と「バランス感覚」を統合した「姿勢体力」を身に付けるために、ペアで姿勢や筋肉を確認しながら楽しく学ぶことができました。

【2】第2分科会（心の健康・心のケア）

◇「小中連携した心の健康教育を目指して」
～養護教諭の日々の実践と保健指導～
青森市富山中学校 養護教諭 中村由紀子
生徒の些細な行動を入力し、毎週の主任会後のいじめ防止対策委員会で情報共有及び指導の方向性を共通理解する資料として、ファイルサーバーを活用

している事例の紹介がありました。
◇「いつも元気・つながる笑顔」～アウトメディアにチャレンジ～
秋田県横手市立横手小学校 養護教諭 鈴木麻里子
横手市養護教諭部会で研究してきたアウトメディアについて、中学校区で毎週1日をノーメディアデーとして取り組んだ実践でした。児童会が主体となったことで行動変容に結びつきやすく、またPTAの研修部会や懇談会でも取り上げる等機会を捉えて効果的に場の設定をしていました。「家族との時間や読書の時間が増えた」など、アウトメディアで生まれた時間の使い方を紹介することで、より家庭との連携も得られていました。

◇グループ討議

助言者（国立大学法人弘前大学医学研究科附属子どものこころの発達研究所 特任教授 栗林理人先生）からは、保護者の理解と協力を得るための手立てとして、保護者と学校の課題が一致していると取組がしやすい、そしてそのためには共通のものさしが必要だということをお話いただきました。



第53回 東北地区養護教諭連絡協議会

8月9日(木)に青森県三沢市国際交流スポーツセンターにおいて「第53回東北地区養護教諭連絡協議会」が第51回東北学校保健大会に先立って開催されました。本会は、東北6県と仙台市の養護教諭研究団体で組織され、各県の活動状況や養護教諭の現状を情報交換しながら諸問題を協議する会です。

はじめに昨年度の会務及び決算、本年度の会務及び予算の提案があり承認されました。続く協議では、「養護教諭の働き方改革における現状とその対策について」をテーマにして各県から現状の報告と情報交換・意見交流が行われました。

各県から多く挙げられたのは、複数配置校数やスポーツ振興センター事務等事務作業量の多さや複雑さ

などでした。

また、養護教諭部会のスリム化として、秋田県ではホームページを利用することで、作業量や費用面の削減を図っているということでした。本県でもホームページの活用については、考えていく必要があるのではないかと思います。

その他、宮城県からは、一度研修などの目的で退職しても一定の期間を経過して復職できる「特約退職制度」についての情報があり、興味深い内容でした。

最後に、次年度は岩手県が開催県であるため、会長より各県の皆さんに日程と会場のご案内をしました。

(副会長 菅 光枝)

平成30年度の新規採用者27名を紹介いたします

清宮 和	盛岡市立東松園小学校	吉田早耶香	陸前高田市立広田小学校	牛窪 温子	岩泉町立有芸小学校
関根はるか	盛岡市立土淵中学校	吉元 春香	陸前高田市立竹駒小学校	及川 未稀	田野畑村立田野畑中学校
加藤 佑佳	盛岡市立北陵中学校	打越 彩女	住田町立世田米小学校	千田真由佳	二戸市立御返地小学校
小川 美緒	盛岡市立渋民中学校	大石 実咲	釜石市立平田小学校	藤沼 絵美	岩手県立盛岡青松支援学校
高橋穂乃花	八幡平市立西根第一中学校	三浦 菜月	釜石市立甲子中学校	古澤 茉耶	岩手県立前沢明峰支援学校
島田 真由	岩手町立沼宮内中学校	藤井 遥菜	宮古市立宮古小学校	菊池 美久	岩手県立大槌高等学校
小野間千芽	岩手町立川口中学校	吉成 睦	宮古市立第一中学校	坂下 佳奈	岩手県立山田高等学校
菅原 瑠里	大船渡市立立根小学校	吉田 芽生	山田町立荒川小学校	伊藤 静香	岩手県立久慈高等学校
小山 愛	大船渡市立大船渡中学校	小川 葵生	山田町立轟木小学校	日沢 有里	盛岡中央高等学校附属中学校